

ま と め

高齢者では、年齢に関係なく薬物に対する反応の個体差が大きいため、画一的な方法では治療に困難をきたす場合がある。高齢者の身体的・生理的機能の特徴を把握し、エビデンスに基づいた投与計画が有効かつ安全な薬物療法を提供するうえで重要である。

また、高齢者と服薬コンプライアンスの間にはCGAでは評価できないもの、たとえば性格、自己判断（間違っ了解釈）、生活パターン、服薬の容易さなどの要素が関係しており、服薬管理者と服薬コンプライアンスとの間にも関連がないことから介護者の要因も複雑に絡み合っていることが予測される。高齢患者の服薬コンプライアンス低下を防ぐためには医療スタッフや介護者からの情報が重要であり、相互に十分な連携をとったうえでのトータルケアが必要である。

〔文献〕

- 1) 池田義雄, 熊坂一成, 竹内登美子ほか編. 薬の作用・副作用と看護へのいかしかた. 東京: 医歯薬出版; 1992.
- 2) 厚生省・日本医師会編. 高齢者における薬物療法のてびき. 東京: 薬業時報社; 1995.
- 3) 吉末泰教, 佐藤賛治, 熊谷隆浩ほか. 高齢者におけるVCM投与設計に関する考察. 第16回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会講演要旨集, 浜松 2.25, 2007. : p26-7.
- 4) 八木哲也, 吉末泰教, 西川満則ほか. 高齢者MRSA感染症に対するバンコマイシン治療におけるTDMの有効性の検討. 第47回日本老年医学学会学術集会講演抄録集, 東京, 2005.
- 5) 熊谷隆浩, 鬼頭佳子, 中村仁美ほか. 高齢者を対象とした服薬指導の評価と問題点. APJHP: 愛知病薬師会誌 1996; 24: 12-5.
- 6) 葛谷雅文, 遠藤英俊, 梅垣宏行ほか. 高齢者服薬コンプライアンスに影響を及ぼす諸因子に関する研究. 日老年医会誌 2000; 37: 363-70.

今月の

用語

隣に伝えたい

新たな言葉と概念

〔CGA〕

〔英〕 Comprehensive geriatric assessment

〔和〕 高齢者総合的機能評価, 老年医学的総合機能評価

〈解説〉 高齢者はしばしば多くの病気を持っていたり、老化による機能障害が進行したりして、家庭生活、社会生活が次第に困難になってくる場合が多い。そのような場合には、ある疾病や特定の臓器の状態からの一面的な評価ではなく、多職種による多面的な評価に基づいた援助を行っていくことが重要と考えられる。そのような考え方に基づく Comprehensive geriatric assessment (CGA), (高齢者総合的機能評価, 老年医学的総合機能評価) は、決して新しい言葉ではないが、最近我が国でも注目が高まっている考え方といえる。

CGAの考え方は、1930年代の英国に遡るとされているが、1980年代にアメリカでNIHが、高齢者医療にとって極めて有効なアプローチであると認めた。CGAで評価すべき項目は、身体的側面（ADL, IADL, 視力・聴力、失禁、身体疾患と合併症、内服薬や必ずしも身体面だけの評価ではないがQOLなど）、精神・心理的側面（認知機能、意欲、抑うつなど）および社会的側面（家族、居住形態、経済状態、地域社会との関係、制度の利用など）を含む。評価で終わるのではなく、評価の結果必要とされた援助についても、医師、歯科医師、看護師、保健師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、管理栄養士、ソーシャルワーカーなど多くの専門職種や行政、ケアマネージャーなどが十分な連携を取って実施して行くことがCGAの重要な意義といえよう。

(白井 宏)